伊勢物語（芥川）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

昔、男ありけり。①女のえ得まじかりけるを、年を経てⓐよばひわたりけるを、「かれは何ぞ。」とAなむ、男に問ひける。芥川といふ川をⓐゐて行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」といとみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓、胡籙を負ひて戸口にをり、b［　］夜も明けなむとBと思ひつつⓑゐたりけるに、鬼、はや一口に食ひてけり。「あなや。」と④言ひけれど、神鳴る騒ぎに、⑤え聞かざりけり。c［　］夜も明けゆくに、見れば、ⓒゐて来し女もなし。足ずりをして泣けども、かひなし。

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて⑥消えなましものを

これは、二条后の、いとこの女御の御もとに、つかうまつるやうにてゐ給へりけるを、かたちのいとめでたくおはしければ、盗みて負ひて出でたりけるを、御兄人堀河の大臣、太郎国経の大納言、まだ下﨟⑦にて内裏へ参り給ふに、いみじう泣く人あるを聞きつけて、とどめて取り返し給うてけり。それを、かくI［　］とはいふなりけり。まだいと若うて、后のただにおはしけるときとや。

問一　空欄a～cに当てはまる語を次の**ア**～**エ**の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　かかるうちに　**イ**　やうやう　**ウ**　からうじて　**エ**　はや

問二　傍線部①、②をそれぞれ現代語訳しなさい。

問三　二重傍線部ⓐ～ⓒの「ゐ」に、当てはまる漢字を次の**ア**～**エ**の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　居　**イ**　射　**ウ**　率　**エ**　入

問四　波線部A、Bの「なむ」の文法的説明として適切なものを次の**ア**～**ウ**の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　強意の係助詞　**イ**　他に対する願望の終助詞　**ウ**　強意（確述）の助動詞＋推量の助動詞

問五　傍線部③「神さへ」の「さへ」は添加の副助詞であるが、どのようなことに加えて「神」まで「鳴り」出したというのか。それに当たる部分を本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問六　傍線部④、⑤の主語を、それぞれ本文中から一字で抜き出しなさい。

問七　傍線部⑥を現代語訳しなさい。

問八　空欄Iに当てはまる語を文中から抜き出して答えなさい。

問九　「つかうまつる」とあるが、誰が誰に「つかうまつる」のか。それぞれ文中から抜き出して答えなさい。

問十　傍線部⑦の「に」と同じ用法のものを後から二つ選び、記号で答えよ。

ア　つれづれなるままに、日暮らし硯に向かひて（つれづれなるままに）
イ　おのが身は、この国の人にもあらず（かぐや姫の嘆き）
ウ　和泉式部、保昌が妻にて、（大江山）
エ　幼き人は寝入りたまひにけり（稚のそら寝）
オ　とぶらひに来たる者ども、（絵仏師良秀）

問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二		問一
				④		A	ⓐ	②	①	a
				⑤		B	ⓑ			b
							ⓒ			c
	が									
	に									

学年
組
番号
氏名
得点

伊勢物語（芥川）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　副詞の用法、「なむ」の識別などの文法事項の確認、登場人物の心情など内容読解の力を問う。

☆解答例と配点

問一　ａ　ウ　ｂ　エ　ｃ　イ　〈２点×３〉
問二　①　女で手に入れられそうもなかった人を　②　求婚し続けたが　〈４点×２〉
問三　ⓐ　ウ　ⓑ　ア　ⓒ　ウ　〈３点×３〉
問四　Ａ　ア　Ｂ　イ　〈２点×２〉
問五　夜も更けにければ　〈４点〉
問六　④　女　⑤　男　〈２点×２〉
問七　私も露のように消えてしまえばよかった。　〈５点〉
問八　鬼　〈２点〉
問九　女（二条后）　が　いとこの女御　に　〈２点×２〉
問十　イ・ウ　〈２点×２〉

計50点